

未来の
ために、
いま選ぼう。

資料1

ナッジ等の行動インサイトの活用にあたり 考慮すべき論点の整理の仕方について

日本版ナッジ・ユニット BEST
(事務局:環境省)



Behavioral Sciences Team
for a better choice

令和元年10月4日

前回のおさらいから



これまでいただいた論点とその整理の仕方

- 論点 (1) 課題の理解
- 論点 (2) エビデンスの参照
- 論点 (3) ナッジの設計
- 論点 (4) 効果測定
- 論点 (5) EBPM・PDCA
- 論点 (6) EBP・出口戦略・社会実装・地域への根付き
- 論点 (7) エビデンスの提供
- 論点 (8) 倫理的配慮
- 論点 (9) ナッジに対する心構え

個別の論点と全般に関わる論点
(EBPMや倫理的配慮など) が
混在した整理になってしまっている

これまでの事例紹介の基本的な構成

【実施中～実施済の事例】

1. 解決しようとした社会や行政の課題
2. 実施体制
3. 用いた行動科学の理論・知見
4. 内部での意思決定
5. 実施内容
6. 効果測定の手法
7. 結果
8. 結果の行政への反映

実際の政策の立案や実践の現場での一連の流れがわかるような形での発表を依頼してきた（わかりやすいとの声も）

【これから本格実施～実施中の事例】

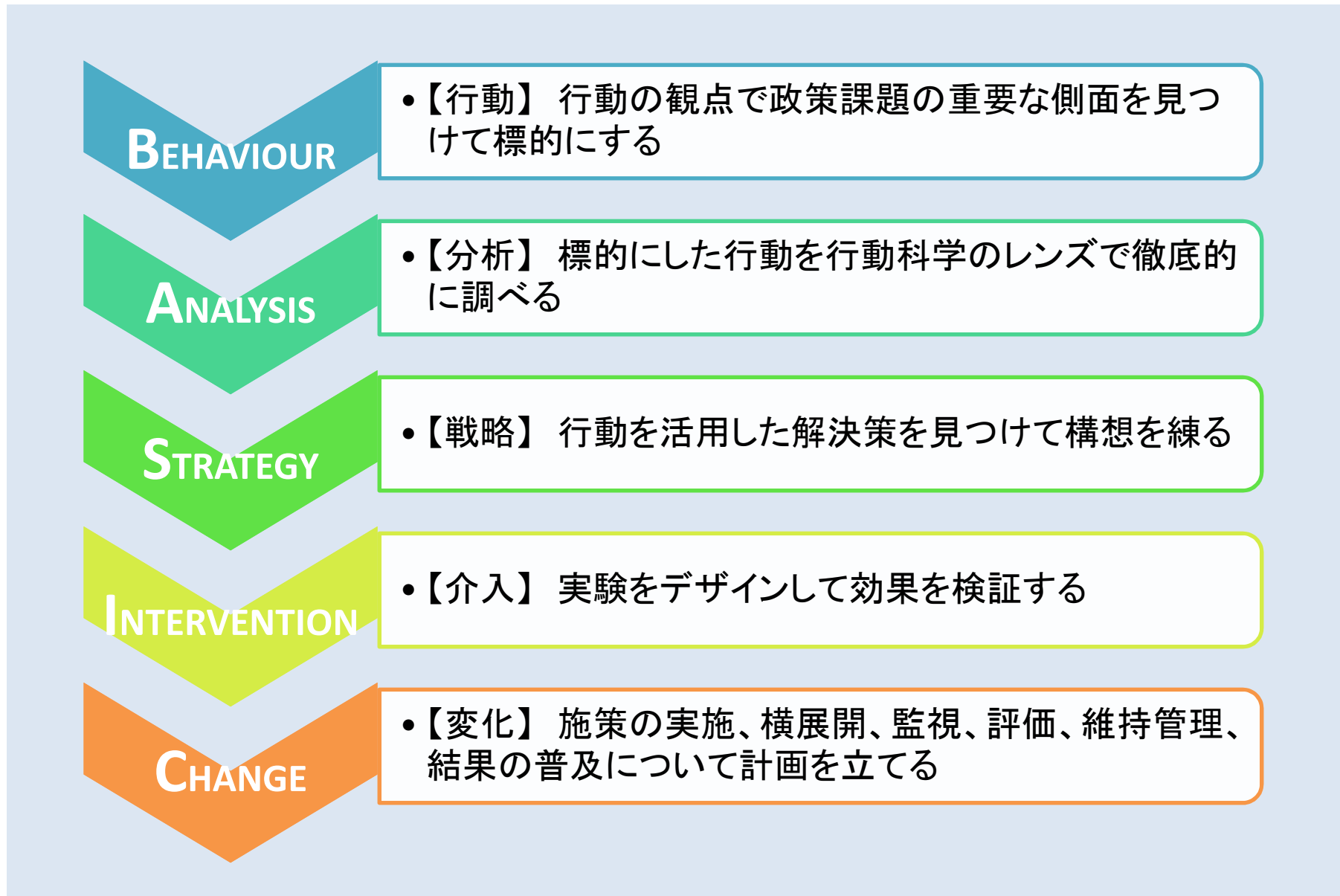
1. 解決しようとした社会や行政の課題
2. これまでどのようなアプローチをとってきたか
3. 現状に対する現場の思い
4. なぜ行動に着目したか
5. 調査の実施体制
6. 調査の実施内容
7. 調査の結果
8. 行動に関して得られた知見（行動インサイト）
9. 内部での意思決定
10. 結果の行政への反映方針
11. 結果や反映方針に対する現場の声

- 公共・非公共を問わず、実際に行動インサイトを社会課題の解決に活用しようとする実務者の視点に立ち、政策や事業の立案から実践の一連の流れに沿って、留意すべき点を「手引き」の形で整理したほうがわかりやすく、使い勝手が良いのではないか
- ちょうど本年、主として公共政策向けだが、OECDが包括的なツールキット“BASIC”を正式にリリース
- BASICの構成や論点を参考に、これまでいただいた論点を整理し直してみてもいいかがか

OECDによる実務者や政策立案者向けの包括的なツールキット “BASIC” (2019)

- 行動インサイトの活用に関する既存のフレームワークを踏まえて、実務者の協力の下、実務者のために策定 (for practitioners, by practitioners)
- 公共政策のサイクルの初めから終わりまでを対象とし、実務者に対してツール・手法・倫理ガイドラインを示す 包括的なフレームワークが欠如しているとの指摘を踏まえて策定された
- 世界中のあらゆるレベルの政府や公的主体が課題の解決のために行動インサイトを広く活用していることに鑑み、以下の課題に対応することを企図
 - 政策及び行動インサイトの実務者が公共政策に行動インサイトを適用しようとする際に、より効果的かつ体系的に実務をこなすこと
 - 政策及び行動インサイトの実務者が 行動インサイトを責任をもって適用するとともに、行動インサイトを不適切に適用・誤用するという潜在的な脅威から市民を最大限守ること

BASICの構成：5つの基本ステージ



BASICで使われているABCDフレームワーク

主にAnalysisとStrategyで用いる

Attention

- 【注意】人間の注意力には限りがあり、容易にそらされる

Belief formation

- 【信念形成】人間はメンタルショートカットや直観的な判断に頼り、しばしば結果や確率を過大・過小評価する

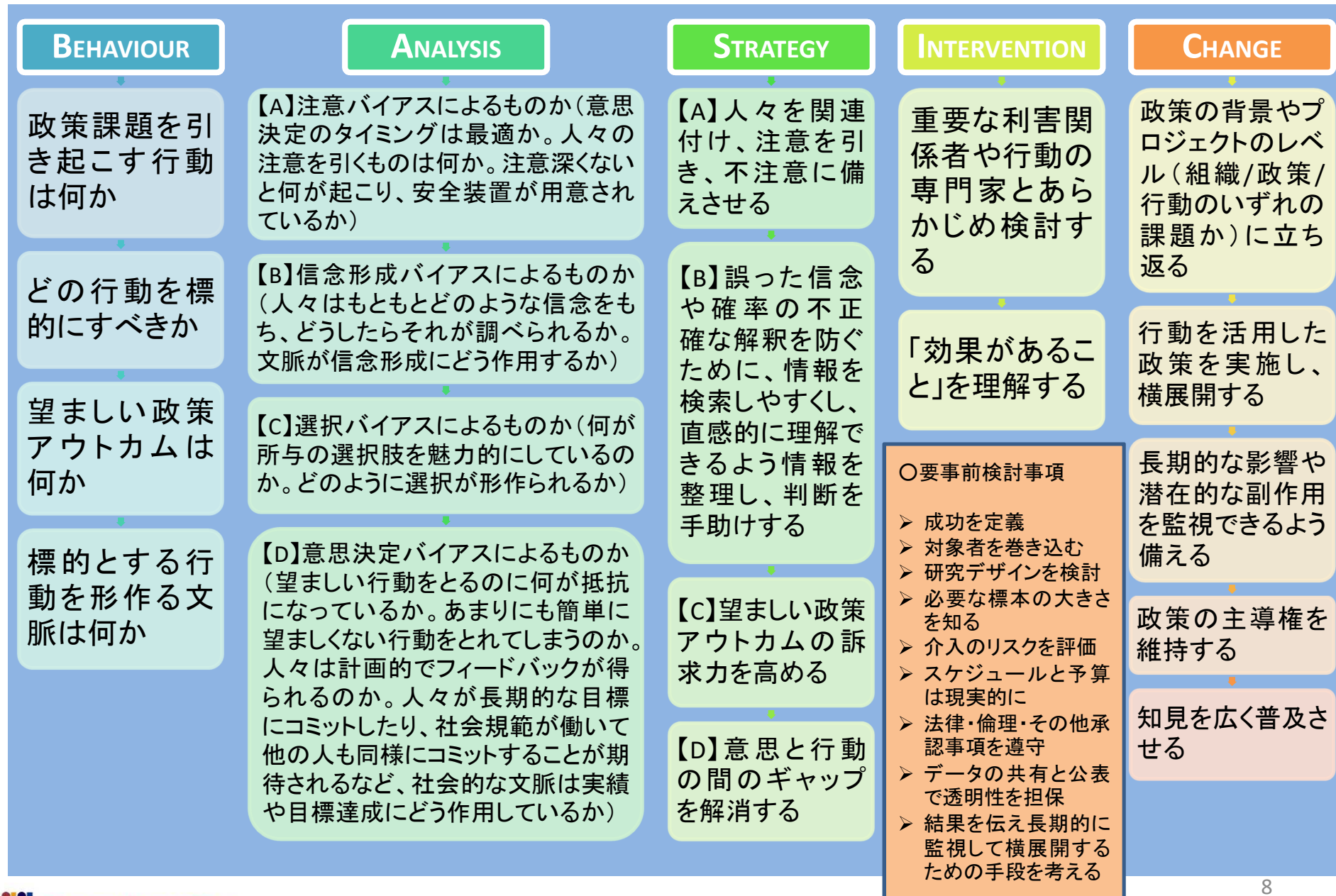
Choice

- 【選択】人間はフレーミングや選択する社会的・状況的な文脈の影響を受ける

Determination

- 【意思決定】人間の自制心には限りがあり、心理的バイアスの影響を受ける

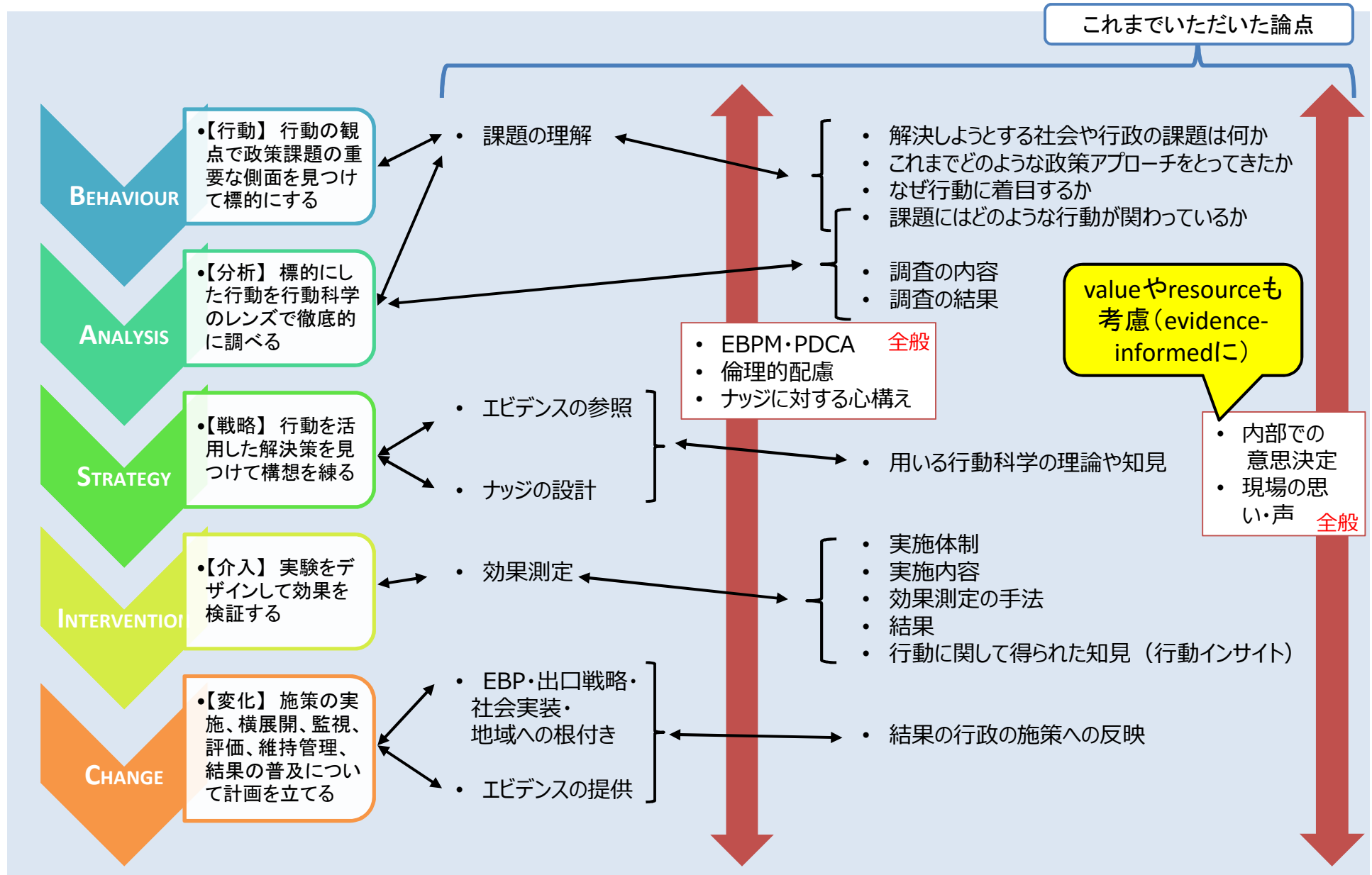
BASICの各ステージの論点 (全体俯瞰図)



実務者のフレームワークの使用状況

- 国際会議（Behavioural Exchange 2019）での発表を見ると、自ら考案したり、長年利用したりして愛着のある独自のフレームワークを使う実務者が多かった
- 結局、各国で背景事情は異なるし、実務者によって大切にしたいと思うこと（PurposeやVisionなど）も異なる様子
- 実際の利用者を念頭に、置かれた状況等を考慮して「一手間」加える工夫が、実務者や政策立案者にとって、使用に耐え、かつ、血の通ったわかりやすい手引きとする上では不可欠ではないか
- 具体的には・・・

BASICの構成・論点に「日本版」の論点を加味して再構築してはいかがか



「日本版」？



「日本版」として参考にしたもの

- 本連絡会議の論点
- 本連絡会議での発表の流れ（実務の現場を反映）
- 行政事業レビューシートの様式・項目
<www.gyokaku.go.jp/review/review.html>

- 同時に、ここまでくるともはや、一般的な公共政策の立案・実践の手順そのものではないか

(cf.ハーバードケネディ行政大学院 (Evidence for Policy Design) 、
カリフォルニア大学バークレー校 (Eugene Bardach教授 Eightfold path))

- それもそのはず、行動インサイトの活用は、政策オプションの1つに過ぎず、様々なオプションを検討し、それらの中からの選択・組合せで政策が決められていくことに鑑みれば、一般的な公共政策の立案・実践の手順に似通ってくるのは当然のこと



その他の留意点？

その他の留意点

- 本連絡会議では毎回のように重要なご意見
 - どんどん論点がたまってしまうので、まずは作ってみる
 - 版（バージョン）で管理して随時改善・更新する形にしてはいかがか
- 利用者のことを考えると、なるべく本手引きだけで完結すべきであるが、（とりわけ本連絡会議の参加メンバーの）参考にすべき優れた文献は積極的に引用
 - 行動経済学の現在と未来（依田高典、岡田克彦 編著）
 - 行動経済学の使い方（大竹文雄 著）
 - 政策評価のための因果関係の見つけ方 ランダム化比較試験入門（小林庸平 リーダー 監修・翻訳） など

ここから本題



行動を理解した上での政策
(behaviorally-informed policy)
の立案・実践の手順 (案)



行動を理解した上での政策立案・実践の手順 (Behaviorally-informed policymaking)

全体を通じた倫理的配慮



- ・ 国民や社会のニーズは何か
- ・ 政策目的は何か
- ・ それは重要で優先度が高いか

Need recognition

- ・ 解決すべき社会課題は何か
- ・ その課題に人々の行動は関わるか
- ・ 問題となる行動が起こる原因は
- ・ 改善すべき成果目標は何か

Uncovering problem

- ・ 従来の政策アプローチは何か
- ・ その他の考えられる政策オプションは
- ・ 費用や効果がより妥当なものはどれか
- ・ 効果を検証するための実験方法や体制は

Designing policies

- ・ 実施体制は整っているか
- ・ 政策オプションを(小規模で)実践する
- ・ 定量的・定性的に効果を測定する

Generating results

- ・ 効果を検証する
- ・ 結果を踏まえ、一連の過程を見直す
- ・ 政策の見直しや改善をする
- ・ 中長期的な効果を監視し、社会へのインパクトを測る

Evaluation & evolution

とくに「**行動**」について関係してくる

④ もんだい

以降を本手引きの対象にする

行動を理解した上での政策立案・実践の手順 (Behaviorally-informed policymaking)

全体を通じた倫理的配慮

① おもい

- ・国民や社会のニーズは何か
- ・政策目的は何か
- ・それは重要で優先度が高いか

Need recognition

② もんだい

- ・解決すべき社会課題は何か
- ・その課題に人々の行動は関わるか
- ・問題となる行動が起こる原因は
- ・改善すべき成果目標は何か

本手引きの主な対象範囲

Uncovering problem

③ ていあん

- ・従来の政策アプローチは何か
- ・その他の考えられる政策オプションは
- ・費用や効果がより妥当なものはどれか
- ・効果を検証するための実験方法や体制は

Designing policies

④ ナツジ!

- ・実施体制は整っているか
- ・政策オプションを(小規模で)実践する
- ・定量的・定性的に効果を測定する

Generating results

⑤ しこうさくご

- ・効果を検証する
- ・結果を踏まえ、一連の過程を見直す
- ・政策の見直しや改善をする
- ・中長期的な効果を監視し、社会へのインパクトを測る

Evaluation & evolution